

上海市在住中国朝鮮族のモビリティとことば Mobility and Language among Koreans in Shanghai, China

新井保裕 (文京学院大学)

中国朝鮮族 (以下, 朝鮮族) は、これまで「朝鮮語 と中国語のバイリンガル」と一般的には考えられてきた。中国東北地域吉林省の延辺朝鮮族自治州に在住し、朝鮮語と中国を用いて生活しているというイメージが強い。しかし朝鮮族は活発な移動性を持ち、国内外の移動も多いことで知られる。そして、2019 年から新型コロナウイルス感染症が拡大したことで一定程度の制限がかかったとは言え、21 世紀は「移動の時代」であり、朝鮮族の在住地域もより多様化している。そして在住地域の多様化と共に、ことばの使用や意識も変化している可能性がある。またグローバル化、デジタル化の中で世界の様々な人々の言語使用や意識も影響を受けており、朝鮮族もその例外ではない。本発表では物理的移動、精神的移動を包括し「モビリティ(mobility)」として広く捉え、中国東北地域から中国南部上海市に移動した上海在住朝鮮族のモビリティとことばの関係を社会言語学的観点から探る。昨今の研究動向、社会情勢を踏まえ、オンライン・インタビュー調査を実施し、その結果を分析考察する。さらに中国東北地域内で延辺から大連市に移住した大連市朝鮮族の事例(新井 2023)とも比較することで、上海在住朝鮮族の特徴を明らかにするだけでなく、朝鮮族ひいては移動する人々のモビリティとことばの共通性、相違性について考える。そしてモビリティとことばの研究の分析枠組み構築に役立てたい。